

報告書の出版にあたって

日本国内外の図書館は、台湾、朝鮮半島、中国東北地方等で刊行された、いわゆる旧植民地関係資料を数多く所蔵している。しかし、これらの資料は旧植民地関係研究者を始め、広い層の利用者から利用が求められているにもかかわらず、十分な保存体制がとられていない。現在かなり破損と劣化が進み、閲覧制限が出てくるなど、非常に厳しい環境下にある。一方、中国では、昨年『中国館蔵満鉄資料聯合目録』（全 30 巻）が刊行されるなど「満鉄資料」を再評価する動きが始まっており、中国東北部の歴史に対し関心が高まる傾向にある。

このような状況下で 2001 年から毎年、旧植民地関係資料をめぐる利用と保存の諸問題について、資料を提供する図書館員とそれを利用する研究者が集まり、「旧植民地関係資料をめぐるワークショップ」が毎年国内の関係機関で開催されている。昨年度は第 7 回目のワークショップ「日中米における満鉄関係資料等の利用と保存をめぐる諸問題」がアジア経済研究所において開催され、日本・中国・米国の 3 カ国が所蔵している満鉄関係資料等の整理・利用・保存に関する情報等の共有化を行い、関係図書館間、および図書館員と研究者間での連携を図った。

このワークショップにおける計 6 本の報告の内容は、旧植民地関係資料を数多く所蔵するアジア経済研究所図書館における資料保存およびその利用体制を整備する上で、多くの示唆を与えるものである。同時に、大学図書館をはじめとする日本各地の旧植民地関係資料の所蔵機関にとっても多くの有益な情報を含んでいる。また、各報告に続いて行われた全体討論においては、旧植民地を研究対象とする研究者を中心にいくつかの批判とコメントが各報告者に対し提示されている。

以上に基づき、第 7 回目のワークショップを総括する目的で、報告内容を加筆・修正したより完成度の高い原稿の執筆を各発表者に依頼し、『日中米における満鉄関係資料等の利用と保存をめぐる諸問題—国際ワークショップ報告書—』としてまとめたのが、本報告書である。

簡単ではあるが、本報告書を構成する各章を以下に紹介する。

まず、第 1 章「米国議会図書館所蔵南満州鉄道株式会社関係資料の保管と利用について

一『所蔵資料の堆積』から利用のための『コレクションの構築』へ一』においては、米国議会図書館における満鉄関係資料の整理・保管を「堆積」から「構築」への推移過程と捉え、同図書館所蔵満鉄関係資料の整理・保管事業の特質を3期に分けて解説している。

第2章「中国に現存する満鉄資料の整理保存と利用」は、中国における満鉄資料の整理・保存・利用状況を概説した後、研究会の組織と『中国館蔵満鉄資料聯合目録』全30巻刊行に至る経緯、ならびに今後のプロジェクトについて解説している。

第3章「デジタルアーカイブス『近現代アジアのなかの日本』—旧植民地関係資料の情報ポータルとして—」は、アジア経済研究所図書館における電子図書館構築事業の一環である旧植民地関係資料情報ポータルの構築に至る経緯を取りまとめ、資料の保存と情報ポータルに関する今後の課題を提示している。

第4章「愛知大学東亜同文書院資料のデータベース化について」は、愛知大学豊橋図書館が持つ旧植民地関係資料(東亜同文書院生の大旅行誌、『支那経済全書』、『支那省別全誌』、『新修支那省別全誌』、東亜同文書院・東亜同文会発行雑誌記事、江口文庫など)のデータベース化事業を解説している。

第5章「大学研究資料としての旧植民地関係図書資料—小樽商科大学における資料活用のための2008年度の取り組み—」は、小樽商科大学百年史編纂室が実施する同大学所蔵旧植民地関係資料のマイクロフィルム化およびデジタル化事業を詳述し、資料の公開利用に向けた検索システム構築の進行状況を解説する。

第6章「国立国会図書館における満鉄資料の所蔵状況」は、内外主要機関の満鉄資料所蔵状況を概算し、国立国会図書館が所蔵する満鉄資料および関連資料4万5500点を7つの範疇に分けて明らかにしている。

本報告書が、国内外に数多く存在する旧植民地資料所蔵図書館にとって、所蔵資料の利用と保存を考える上で参考になれば幸いである。

アジア経済研究所図書館専任調査役
高橋宗生